

講義・演習概要 (シラバス)

第1部・第2部特別課程

第48期

【令和7年1月31日～令和7年2月28日】

第1部・第2部特別課程第48期 シラバス一覧

区分	番号	課 目	担 当 講 師		初講義日	頁
1. 総合教養課目						
	1-1	卒業生講話	中島 千恵	千葉市美浜区長	2月3日	1
	1-2	校長講話	菊池 善信	自治大学校長	1月31日	－
	1-3	自治体行政学	伊藤 正次	東京都立大学大学院法学政治学研究科・法学部教授	2月6日	1
	1-4	人間関係論	高田 朝子	法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授	2月7日	2
	1-5	ワークライフバランスの実現に向けて～組織と個人も共に成長～	宮原 淳二	株式会社東レ経営研究所 DE&I共創部 部長	2月12日	2
2. 公共政策・行政経営課目						
	2-1	行政経営の理論と実践	宮脇 淳	北海道大学名誉教授、株式会社日本政策総研代表取締役社長	1月31日	3
	2-2	政策法務	北村 喜宣	上智大学法学部教授	2月18日	4
	2-3	データサイエンス	市川 宏	総務省統計研究研修所教授	2月5日	4
			駒形 仁美	独立行政法人統計センター 情報システム部共同利用システム課長		
	2-4	統計データ利活用演習	駒形 仁美	独立行政法人統計センター 情報システム部共同利用システム課長	2月5日	5
	2-5	社会調査の方法	小山 弘美	関東学院大学社会学部教授	2月13日	5
	2-6	行政における争訟対応	辻 崇成	弁護士、板橋区法務専門監、総務省官民競争入札等監理委員会委員	2月26日	6
	2-7	リーダーシップとマネジメント	谷 益美	株式会社ONDO代表取締役	2月25日	6
	2-8	管理監督者が実践すべきメンタルヘルス対策	川波 祥子	産業医科大学産業医実務研修センター 教授 センター長	2月20日	7
3. 地方公共団体を巡る最新の政策課題						
	3-1	災害危機管理	目黒 公郎	東京大学教授	2月10日	8
	3-2	サイバーセキュリティ対策	高倉 弘喜	国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授	2月14日	9
	3-3	自治体のデジタル化について	前田みゆき	デジタル庁 プロジェクトマネージャー	2月4日	10
	3-4	デザイン思考とDX	狩野 英司	一般社団法人行政情報システム研究所 主席研究員	2月4日	10
	3-5	DX推進におけるマネジメント	原田 智	京都産業大学 シニアディレクター（DX推進担当）	2月20日	11
	3-6	多文化共生と地域社会	田村 太郎	ダイバーシティ研究所 代表理事	2月14日	12
	3-7	地域を持続可能とする公共交通維持・確保策	加藤 博和	名古屋大学大学院環境学研究科教授	2月19日	13
	3-8	グリーン社会の実現と求められる地方自治体の役割	橋川 武郎	国際大学学長	2月21日	13
	3-9	地域医療の課題と展望	小谷 和彦	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授	2月10日	14
	3-10	地域福祉の課題と自治体の政策	渋谷 篤男	日本福祉大学福祉経営学部教授	2月7日	14
	3-11	子供の貧困対策	駒村 康平	慶應義塾大学経済学部教授	2月27日	15
	3-12	地域経済の活性化と産業政策	岡田 知弘	京都橘大学経済学部教授、京都大学名誉教授	2月17日	15
	3-13	経済学で考えるまちづくり	中川 雅之	日本大学経済学部教授	2月6日	16
	3-14	自治体の教育行政・制度とその課題	神林 寿幸	明星大学教育学部准教授	2月21日	16

1. 総合教養課目

1-1 卒業生講話	
担当講師	なかじま ちえ (千葉市美浜区長)
プロフィール	行政職として千葉県千葉市に入庁、人材育成課長、生涯学習振興課長、中央図書館長兼管理課長などを経て、2023年4月から現職 2004年自治大学校 第1部・第2部特別課程 第17期受講
講義の内容	地方自治体職員として中堅に差しかった研修生の皆さんへ、視野の持ち方や、職場での課題のとらえ方（仕事の進め方、コミュニケーション、人間関係、役割分担、チームワーク力など）等を伝えることで、今後のキャリアビジョンについて、自分自身を振り返り、考えるきっかけとなることをねらいとします。 そのため、自治大学校第1部・第2部特別課程の受講を通じて私自身が得たもの・感じたことや、仕事をするうえで大切にしていることなど、職員としての経験・思いをお伝えし、研修生の皆さんへエールを送ります。
事前課題・持ち物など	—
教科書	—
参考図書	—

1-3 自治体行政学	
担当講師	いとう まさつぐ (東京都立大学大学院法学政治学研究科・法学部教授)
プロフィール	2001年9月東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了、東京都立大学法学部助教授、首都大学東京法学系准教授、同教授等を経て現職。
講義の内容	日本の自治体行政をめぐる現代的な課題についての理解を深めてもらうことを目的とする。講義の構成は以下を予定している。 (1) 日本の自治体行政の基本構造 (2) 自治体間連携 (3) 公共私連携 (4) デジタル化とサービス提供体制の再編 (5) 地方分権改革と質保証 (6) 「非平時」における国・自治体関係
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	講義レジュメ
参考図書	・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治 新版』北樹出版、2020年 ・曾我謙悟『日本の地方政府』中公新書、2019年

1-4 人間関係論	
担当講師	たかだ あさこ 高田 朝子（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授）
プロフィール	モルガン・スタンレー証券(株)勤務を経て、サンダーバード国際経営大学院国際経営学修士（MIM）、慶應義塾大学大学院経営管理研究科経営学修士（MBA）、同博士課程修了。経営学博士。専門分野は組織行動、リーダーシップ。
講義の内容	人間関係は組織マネジメントを上手に行うための基本である。本講義では、まず人間関係の構造を理解することから始まり、その後どのようにチームや組織をマネジメントするのか、また現状比較的小数派である女性マネージャーとしてどのようなことに留意するのか、もしくはしないのかについて講義とグループワークを通じて理解を深めます。
事前課題・持ち物など	教科書を読んでおくこと。同時に日々の職場と職務において、特に人間関係や動機づけの面から考えて、どのようでありたいか、現状では何が不足しているか、などを事前に考えておくようにして下さい。
教科書	講義レジュメ、教科書 『女性マネージャー育成講座』生産性出版
参考図書	なし

1-5 ワークライフバランスの実現に向けて ～組織と個人も共に成長～	
担当講師	みやはら じゅんじ 宮原 淳二（株式会社東レ経営研究所 DE&I 共創部 部長）
プロフィール	1989 年早稲田大学社会科学部卒業 資生堂入社。営業から商品企画、マーケティング、人事労務全般を幅広く担当。2009 年人事部参事、2010 年中部支社店頭企画部長 2011 年 1 月東レ経営研究所入社 現在に至る。
講義の内容	前職資生堂時代、社内でワークライフバランスの中心的な役割を担い、女性管理職登用や仕事と育児の両立支援など実践した。また管理職として、女性部下 100 名を持った経験もあることから、講義については、①女性活躍の重要性②ワークライフバランス③男性の育児参画④イクボス的マネジメント手法（部下のモチベーションを高めるケーススタディ）を伝える予定である。 また以前、佐々木常夫氏が本講座を担当された経緯から、佐々木常夫流仕事術についても伝授する。※佐々木常夫氏は 2024 年 4 月 28 日に他界されました。
事前課題・持ち物など	事前課題はなし。持ち物は筆記用具を準備願います。
教科書	特になし
参考図書	内閣府が発表している『令和 6 年版男女共同参画白書』および『女性版骨太方針 2024』に目を通しておいください。

2. 公共政策・行政経営課目

2-1 行政経営の理論と実践	
担当講師	みやわき あつし 宮脇 淳（北海道大学名誉教授、株式会社日本政策総研代表取締役社長）
プロフィール	日本大学法学部卒、参議院事務局、経済企画庁、株式会社日本総合研究所主席研究員等を経て、1998 年より北海道大学法学研究科教授、2023 年 4 月より現職。
講義の内容	地方自治体の人材・財源等既存資源の制約と経済社会の諸活動の相互関連性が強まると共に、民間企業や NPO とのパートナーシップ等新たな行政経営の手法も広がりつつある。同時に ICT、AI 等情報化時代を迎え、地方自治体の政策企画力が求められる中で、いかに自治体運営を展開するか行政経営の入門的視点を次の四つのブロックに分けて体系的に解説し理解を深める。 ①地域経済社会のパワーシフトへの理解 超少子高齢化等地域経済社会の構造的変化の本質を一步掘り下げて解説し、個々の現象面の根底に位置している普遍的課題を見抜く視野を形成する。 ②政策・経営を科学することへの理解 「①」を踏まえ、政策・経営を思考する上で前提となる「実践的に科学する姿勢」を学ぶ。行政経営を担う自治体職員としての思考の体系化を図る。 ③ICT、DX、内部統制やリスク管理、圏域等技術進化や新たな制度への理解 ④創造のための姿勢。 行政経営を巡る意識改革、異化効果とは何かを理解する。
事前課題・持ち物など	・ 新たな視点を発掘する期待感を持って受講して下さい。 ・ 授業は、講義形式を基本としますが質問も織り交ぜます。
教科書	パワーポイントと参考資料で構成する講義資料により進めます。
参考図書	宮脇淳編著（2017）「自治体経営リスクと政策再生」東洋経済新報社

2-2 政策法務	
担当講師	きたむら よしのぶ 北村 喜宣（上智大学法学部教授）
プロフィール	神戸大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了。横浜国立大学経済学部助教授、上智大学法科大学院長、同大学院法学研究科長などを経て2023年より現職。
講義の内容	分権改革がもたらした法環境の変化を踏まえて、自治体は、地域特性を反映した法運用をすることが求められている。中央政府職員も自治体職員も、法律に明文規定がなければ条例はできないと考えている。この発想の問題点を確認し、法定事務に対して条例を制定する解釈論およびその実例を紹介する。
事前課題・持ち物など	政策法務は、憲法、行政法、地方自治制度と深く関わっています。それらを政策法務の糸で紡いでいきます。
教科書	・講義レジュメ ・北村喜宣『自治力の闘魂』（公職研、2022年4月） ・北村喜宣『リーガルマインドが身につく自治体行政法入門〔改訂版〕』（ぎょうせい、2023年） ・『ポケット六法 令和6年版』（有斐閣）
参考図書	原島良成（編著）『自治立法権の再発見』（第一法規、2020年）

2-3 データサイエンス	
担当講師	いちかわ ひろし 市川 宏（統計研究研修所教授）
プロフィール	総務庁（現総務省）入省。総務省統計局（国勢調査の実施等）、政策統括官（統計基準担当）（経済センサス創設等）、行政管理局（規制緩和推進）、行政評価局（独法評価）を担当、統計局調査企画課調査官を経て現職。
担当講師	こまがた ひとみ 駒形 仁美（（独）統計センター情報システム部共同利用システム課長）
プロフィール	総務庁（現総務省）入省。統計センターで家計調査、消費者物価指数、全国消費実態調査等を担当。
講義の内容	今、社会では、統計的な思考力によって様々な課題を解決していく能力、すなわち“データサイエンス”力の高い人材が求められている。本講義では、“データサイエンス”力の一つとして必要不可欠な統計に関する基礎的な知識を得ることをねらいとし、以下について学ぶ。 I. データサイエンス入門 ～データ分析の基礎～（市川先生） 公的統計の種類・特徴と利用上の注意点、統計データの具体的な入手方法、統計データの見方 II. 統計データと統計地理情報システム～e-statより（駒形先生） jSTATMAPの紹介
事前課題・持ち物など	なし
教科書	講義レジュメ（その他、参考資料配付予定）
参考図書	なし

2-4 統計データ利活用演習	
担当講師	こまがた ひと み 駒形 仁美（独）統計センター情報システム部共同利用システム課長）
プロフィール	総務庁（現総務省）入省。統計センターで家計調査、消費者物価指数、全国消費実態調査等を担当。
講義の内容	I e-Stat で統計グラフを探す II e-Stat の統計地理情報システム演習 演習1 市町村地域の中で65歳以上人口が50%以上となる町丁・字を探してみましょう 等
事前課題・持ち物など	【事前配布】研修生用 ID, パスワード（1名ずつ個別の ID を利用します。）
教科書	なし
参考図書	パワーポイントによる配布資料

2-5 社会調査の方法	
担当講師	こやま ひろ み 小山 弘美（関東学院大学社会学部教授）
プロフィール	首都大学東京大学院博士後期課程単位取得退学、博士（社会学） せたがや自治政策研究所政策研究員・専門社会調査士
講義の内容	行政計画策定の過程において、「市民意識調査」等の統計調査が行われることが多いが、その原理や問題点など、行政担当者にきちんと理解されているのだろうか。たとえ調査自体は外部委託されることが多いとしても、担当者がその本質を理解したうえで調査が行われることが重要である。調査に携わる際、調査企画の設計や調査結果の分析などについて、どこをポイントに注意すべきか学び、身につけることを本講義のねらいとする。 講義では、社会調査全体の構造を概説する。社会調査は、大きく質的調査と量的調査に分かれており、これらの長所短所を知ることによって、社会調査によってわかること・わからないことを認識する。その後、具体的な自治体の調査事例を踏まえながら、現行の調査の問題点を考えていく。
事前課題・持ち物など	所属自治体における市民意識調査等の社会調査実施状況について、事前に確認しておくこと。
教科書	講義レジュメ（その他、参考資料配付予定）
参考図書	・大谷信介ほか編著 2023 年『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ・大谷信介編著 2002 年『これでいいのか市民意識調査』ミネルヴァ書房 ・玉野和志著 2008 年 4 月 『実践社会調査入門』世界思想社 ・森岡清志編著 2007 年 9 月 『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社

2-6 行政における争訟対応	
担当講師	辻 崇成（弁護士、板橋区法務専門監、総務省官民競争入札等監理委員会委員）
プロフィール	東京大学法学部卒業、国家Ⅰ種公務員試験（法律職）合格、元内閣府参事官補佐
講義の内容	1 自治体における訴訟の動向の解説 2 訴訟の未然防止策、発生後の対処方法（特に、原課の管理職として弁護士との連携方法や、法務部署との作業の進捗管理等）
事前課題・持ち物など	1 受講者の所属自治体が当事者となった裁判において、①何が争点だったのか、②その争点ではどんな事実を立証する必要があったのか、③その事実を立証するどんな証拠があったのか、④その証拠をどうやって入手したのか、⑤その証拠をいつ入手したのか（裁判中に探したのか）や、①から⑤に付随する苦労話や反省点などにつき、周囲の経験者等から、簡単でも構わないので、聞いておくことが望ましい。 2 次項「教科書」にある事前配布された資料につき、それぞれ、10分から15分程度、目を通す。資料2は当日上映されるパワーポイントの抜粋である。資料3は目次と索引全てに目を通し、余裕があれば、本文部分の関心のある部分を読み進めることを推奨する。引用された判決文自体は初学者には読みにくいため、飛ばして構わない。
教科書	事前配布された資料1、2、3（別途、パワーポイントの上映を予定）
参考図書	なし

2-7 リーダーシップとマネジメント	
担当講師	谷 益美（株式会社 ONDO 代表取締役）
プロフィール	株式会社 ONDO 代表取締役、早稲田大学ビジネススクール非常勤講師
講義の内容	本講義では、参加者同士の対話を通じ、リーダーシップとは何か、マネジメントとは何かを学び、自分らしいリーダーとしての在り方を考える機会を提供する。自分らしさを理解するための「ソーシャルスタイル理論」を活用し、自分とメンバーの特徴を理解することで、日々のコミュニケーション改善のヒントにもして欲しい。
事前課題・持ち物など	事前課題は設定しないが、自分らしいリーダーシップとは何かをイメージして参加することが望ましい。
教科書	なし
参考図書	・谷益美著 2014年7月『リーダーのための！ファシリテーションスキル』すばる舎 ・谷益美著 2017年2月『リーダーのための！コーチングスキル』すばる舎

2-8 管理監督者が実践すべきメンタルヘルス対策

担当講師	かわなみ しょうこ 川波 祥子（産業医科大学 産業医実務研修センター 教授 センター長）
プロフィール	産業医科大学卒業、放射線科医、専属産業医、労働衛生機関医等を経て現職
講義の内容	職員のメンタルヘルス不調を防止するために、管理監督者が果たすべき役割を理解し実践できるようになることをねらいとする。 「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づくラインケアの意義と内容を解説するとともに、職員のメンタルヘルス不調への気づきと対応のためのポイント、職場復帰の支援、職場環境の把握と改善等について事例を交えながら解説する。また、管理監督者自身のストレスへの対処方法としてのセルフケア、ストレスコーピングについて学ぶ。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	特になし
参考図書	特になし

3. 地方公共団体を巡る最新の政策課題

3-1 災害危機管理	
担当講師	めぐろ きみろう 目黒 公郎（東京大学教授）
プロフィール	1991 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、同大学生産技術研究所の助手・助教授を経て 2004 年より現職。また現在、同大学院情報学環・学際情報学府学環長・学府長を務めるとともに、国連大学、放送大学、東工大、東北大などの客員教授、内閣府本府参与、日本地震工学会会長、地域安全学会会長、日本自然災害学会会長、国際地震工学会理事等を歴任。
講義の内容	本講では、災害発生のメカニズムと防災の基本を学ぶとともに、将来の被害を最小化するために、事前から復旧・復興期までの災害対策を、どのように考え、どのように効率的に進めていくべきか、自治体職員（特に災害対応の責任者）が参考にできるよう実践的知識を習得する。また地域防災計画のあるべき姿とその運用法を学ぶこともねらいとする。
事前課題・持ち物など	なし
教科書	・講義レジュメ ・『地域と都市の防災』目黒公郎・村尾修（放送大学教育振興会） ・『首都直下大地震 国難災害に備える』目黒公郎（旬報社）
参考図書	なし

3-2 サイバーセキュリティ対策	
担当講師	たかくら ひろき 高倉 弘喜（国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授）
プロフィール	1990年九州大学工学部卒、1992年九州大学大学院工学研究科修士課程修了、1995年京都大学大学院工学研究科博士課程修了・博士(工学)。京都大学研究員、イリノイ州立大学訪問研究員、奈良先端科学技術大学院大学助手、京都大学講師・助教授・准教授、名古屋大学教授を経て、2015年より国立情報学研究所教授、2022年より同ストラテジックサイバーレジリエンス研究開発センターセンター長。
講義の内容	私たちが生活するフィジカル空間と新たに生まれたサイバー空間が相互作用するようになり、もはや現代社会ではサイバーなしの活動は成り立たなくなりつつある。一方で、十分な対策を講じていてもサイバー攻撃を阻止できない事故が相次ぐこと、額によっては長期間の運用停止を余儀なくされることを考えると、サイバー攻撃による被害を緩和しつつ、我々の活動を継続するレジリエンスという考え方が重要となる。このためには、サイバー攻撃による被害そのものをコントロールできる耐性を備え、かつ、被害発生箇所がアキレス腱(単一障害点)とならない多重化されたシステムの構築が重要となる。また、サイバー攻撃による被害発生時には、人も重要な役割を担うこととなる。特に、サイバー攻撃発生時に陥りやすいエリートパニックに対し、その要因と緩和策が必要となる。 これらの背景を受け、システム全体を俯瞰したサイバーセキュリティ体制の考え方について解説する。
事前課題・持ち物など	なし
教科書	なし
参考図書	なし

3-3 自治体のデジタル化について	
担当講師	まえだ みゆき 前田 みゆき（デジタル庁 プロジェクトマネージャー）
プロフィール	㈱日立製作所システム開発研究所入所。その後、ビジネスシステム開発センタにて、主に電子行政・地域情報化をテーマに調査研究・コンサルティングを推進。㈱日立システムズ 主席コンサルタント、内閣官房IT総合戦略室地方班政府CIO補佐官を経て、2021年9月より、デジタル庁 プロジェクトマネージャー
講義の内容	2部で構成する。 1部は、スマート自治体に向けて AI について解説する。AI の概要や事例の解説を通し、技術を賢く使いこなすポイントについて理解する。 2部では、自治体システムの変遷から、標準化の背景を理解した上で、現在進められている標準化の概要及び標準化を進める上でのポイントについて解説する。
事前課題・持ち物など	所属する自治体での AI の導入状況を調べてくること。（AI を導入している場合は、どのような業務に導入しているかを調べてくること） また、所属部署・自治体において、自治体システムの標準化の進捗状況を調べてくること。
教科書	なし
参考図書	なし

3-4 デザイン思考とDX	
担当講師	かのう えいじ 狩野 英司（一般社団法人 行政情報システム研究所 主席研究員）
プロフィール	中央官庁、大手シンクタンク、大手メーカー勤務を経て現職。行政や地域のデジタルトランスフォーメーションが専門。行政情報システム研究所 主席研究員、立命館アジア太平洋大学 准教授、事業構想大学院大学 客員教授、自治体アドバイザー（調布市、福井県など）、筑波大学発ベンチャーD's Link のCEOなどを務める。月刊 J-LIS 誌で「自治体職員のためのデジタル技術の基礎知識」を連載中。
講義の内容	自治体職員がデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む際の課題の発見・定義、解決方針の導出、解決策の現場への落とし込みにおいて中心的な役割を担うデザイン思考について、その背景や意義、概要、具体的な手法を行政の事例を交えて紹介します。さらに、学んだ知識を基に、代表的な手法の一つであるジャーニーマップの作成方法を、実際のワークショップを通じて習得します。
事前課題・持ち物など	関心のあるテクノロジーや業務課題等に関する事前アンケートに回答ください。当日は、自身のパソコンを持ち込んでください。
教科書	講義レジュメ
参考図書	狩野英司，自治体職員のための入門デジタル技術活用法，ぎょうせい，2020.6

3-5 DX推進におけるマネジメント	
担当講師	はらだ さとし 原田 智（京都産業大学 シニアディレクター（DX 推進担当））
プロフィール	元 京都府 C I O兼C I S O 情報政策統括監 総務省 地域情報化アドバイザー、自治体DX検討会等の委員を歴任 京都府の情報政策、税部門において、市町村基幹系システムの共同化、それをベースとした課税を含む税業務の共同化等、デジタル技術を活用した業務改革に取り組む。
講義の内容	深刻化する人口減少に合わせて、自治体は職員数を毎年のように減らさざるを得なくなると考えられます。職員が減っても住民サービスレベルを下げるわけにはいきませんから、自治体は住民の期待に応え続けていくため業務効率化に取り組まざるを得ず、その手段としてクラウド、A Iを始めとするデジタル技術は必要不可欠なものとなります。 この講義では現実の業務に即して、どのように業務を改革し、デジタル技術を活用すれば最大の効果が発揮できるのか、プロジェクトの企画から調達、運用までの過程に沿って説明します。 受講された皆さんが、本講義の内容を自治体現場における業務改革、DXの取組に生かしていただくことをねらいとします。
事前課題・持ち物など	特になし
教科書	講義レジュメ（その他、参考資料配付予定）
参考図書	特になし

3-6 多文化共生と地域社会	
担当講師	たむら たろう 田村 太郎（ダイバーシティ研究所代表理事）
プロフィール	1995年多文化共生センター事務局長就任。同センター代表、ダイバーシティ研究所代表を経て、2009年より現職。東日本大震災直後に内閣官房企画官、復興庁設置後は上席政策調査官を兼務。現在も復興庁・復興推進参与として東北復興に携わる。共著に『阪神大震災と外国人』『多文化共生キーワード事典』などがある。
講義の内容	1. 日本で暮らす外国人の概要 統計資料をもとに在留外国人の現状や入管法についての基礎知識を紹介 2. 多文化共生をめぐる施策の変遷 国内の主な自治体施策の変遷と海外の移民に関する都市政策を解説 3. 地域における多文化共生の推進について 総務省のプランなどを紹介しながら、地域で多文化共生を進めるうえでのポイントを解説
事前課題・持ち物など	「地域における多文化共生推進プラン(改訂)」(2020年9月・総務省)および「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」(2022年6月・外国人の受入れ・共生に関する関係閣僚会議)に目を通してくること
教科書	当日配布
参考図書	

★多文化共生推進プラン 総務省

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei05_03000060.html

★外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ(出入国在留管理庁)

https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/04_00033.html

3-7 地域を持続可能とする公共交通維持・確保策	
担当講師	かとう ひろかず 加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）
プロフィール	名古屋大学工学部土木工学科卒業。同大学院工学研究科博士後期課程修了。同助手、環境学研究科准教授を経て、2017 年より教授。2013～2023 年の間、国土交通省交通政策審議会委員を務める。
講義の内容	少子高齢化や人口減少の進展、運転士等担い手の不足を背景に、地方部のみならず都市部においても、住民生活を支える地域公共交通網が維持困難となっている。一方で、地域の活力維持やインバウンド対応、高齢者や子どもの移動手段確保といった観点から地域公共交通網確保・維持の重要性が広く認識されてきている。2007 年施行の地域公共交通活性化再生法は、持続可能な地域公共交通網の形成に取り組むべき主体として第一に地方公共団体を挙げており、その具体的で実効性ある取組が期待されている。さらに近年、大きな制度改正があり、地域公共交通・デザインに向けた取組の幅が広がったことから、それを活用した施策見直しも急務となっている。 本講義では、地域公共交通に関する現状や存在意義、確保維持策の概要を学び、住民の暮らしを守るために地方公共団体が何を行うべきかを考える。
事前課題・持ち物など	所属する自治体の公共交通計画（あれば）を一読すること。また、地元の路線バス・コミュニティバスの過去の乗車経験から、利用状況、良かった点や悪かった点、改善策の案などを各自検討し、地元の公共交通の現状を踏まえてから、講義に臨むこと。
教科書	なし
参考図書	事前に参考となるように、講師執筆の原稿を配布するので一読しておくこと。

3-8 グリーン社会の実現と求められる地方自治体の役割	
担当講師	きっかわ たけお 橘川 武郎（国際大学学長）
プロフィール	東京大学大学院単位取得退学、経済学博士、東京大学・一橋大学教授などを経て現職。
講義の内容	2020 年 10 月の菅前首相の所信表明演説を機に、日本でも、2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする動き、つまりカーボンニュートラルをめざす動きが強まっている。本講義では、カーボンニュートラルやその過程で求められる GX（グリーン・トランスフォーメーション）を実現するためには何をなすべきか、そこで地方自治体がはたすべき役割は何か、について考察する。
事前課題・持ち物など	できれば、下記の教科書を読んでおくこと（特に序章～第 2 章・第 7 章～終章）。
教科書	橘川武郎『エネルギー・トランジション』白桃書房、2024 年
参考図書	特になし

3-9 地域医療の課題と展望	
担当講師	こたに かずひこ 小谷 和彦（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授）
プロフィール	自治医科大学医学部卒業。自治医科大学医学部臨床検査医学（兼）地域医療学センター勤務などを経て、2015年より現職。
講義の内容	へき地医療を含む地域医療の方向性、それに関連する動向（地域医療構想、地域包括ケア等）、行政と住民の役割を題材に、地域医療を取り巻く現状と課題に関して講義する。
事前課題・持ち物など	わが国あるいは自分の自治体の地域医療の様子について考えを巡らせておく。
教科書	講義に関連した配布資料を使用する。
参考図書	地域医療白書 第5号 『これからの地域医療を担う人たち ～場や人をつなぐ医療人の育成時代に向けて～』

3-10 地域福祉の課題と自治体の政策	
担当講師	しぶや あつお 渋谷 篤男（日本福祉大学福祉経営学部教授）
プロフィール	元全国社会福祉協議会常務理事（41 年間在籍）
講義の内容	地域福祉の歴史と「地域共生社会」の目標 地域福祉の相談支援 地域福祉ガバナンス 自治体の責務（地域福祉計画を含む） 住民、社会福祉関係者の責務
事前課題・持ち物など	所属する自治体の地域福祉計画を読んでおくこと
教科書	なし
参考図書	なし

3-11 子供の貧困対策	
担当講師	こまむら こうへい 駒村 康平（慶應義塾大学経済学部教授）
プロフィール	国立社会保障・人口問題研究所研究員、駿河台大学経済学部助教授、東洋大学経済学部助教授、教授を経て現職。
講義の内容	少子高齢化社会では、社会保障の役割がますます大きくなる。 本講義では、少子化の現状と社会経済システム、子どもの貧困・格差の影響などを踏まえ、未来への投資としての子育て支援政策を学ぶ。
事前課題・持ち物など	なし
教科書	配布するレジュメ
参考図書	・駒村康平編著（2020）『社会のしんがり』新泉社 ・駒村康平編著（2021）『みんなの金融』新泉社 ・駒村康平編著（2023）『貧困の諸相』放送大学教育振興会 ・駒村康平・諸富徹編著（2023）『環境・福祉政策が生み出す新しい経済』岩波書店

3-12 地域経済の活性化と産業政策	
担当講師	おかだ ともひろ 岡田 知弘（京都橘大学経済学部教授、京都大学名誉教授）
プロフィール	京都大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科経済政策学博士後期課程修了後、岐阜経済大学講師・助教授、京都大学助教授・教授などを経て、同大学公共政策大学院院長を歴任し、2019年4月より現職。
講義の内容	地域産業・経済・社会を再生していくための地域づくりについて、「地域内再投資力」という考え方を通じて、具体的・実践的に学ぶことをねらいとし、本講義では、地方自治体で地域産業政策や地域づくり政策を展開していくために必要な基礎知識と、多様な政策手段について、できるだけ具体的な事例を交えながら、講述していく。
事前課題・持ち物など	講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたい。そのため、積極的な受講をお願いしたい。
教科書	講義レジュメ
参考図書	岡田知弘『地域づくりの経済学入門』増補改訂版、自治体研究社、2020年

3-13 経済学で考えるまちづくり	
担当講師	なかがわ まさゆき 中川 雅之（日本大学経済学部教授）
プロフィール	1984 年京都大学経済学部卒業、同年建設省入省後、大阪大学社会経済研究所助教授、国土交通省都市開発融資推進官などを経て、2004 年から現職。
講義の内容	公共施設の老朽化が全ての自治体で深刻な問題になっている。それに対する公共施設再配置は、どのような理論に基づくのかを、公的不動産の管理という視点から解説する。その上で、この公共施設再配置は、どのような都市政策を前提としたものなのかを議論し、それと自治体がおかれている将来の経済社会環境との関係の理解を促す。 1 公共施設、公的不動産の現況、2 インフラクライシスとは何か、3 PRE (Public Real Estate Management) とは何か、4 日本の都市をめぐる将来の経済社会環境、5 都市のコンパクト化の必要性、6 都市のコンパクト化を如何にして実現するか
事前課題・持ち物など	なし
教科書	講義レジュメ
参考図書	山崎福寿・中川雅之著『経済学で考える人口減少時代の住宅土地問題』（一般財団法人土地総合研究所）

3-14 自治体の教育行政・制度とその課題	
担当講師	かんばやし としゆき 神林 寿 幸（明星大学教育学部准教授）
プロフィール	1988 年、神奈川県出身。東北大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員、独立行政法人教職員支援機構研修特別研究員等を経て、2023 年 4 月より現職。専門は教育行政学。
講義の内容	日本では教育委員会制度の下で地方自治体の教育行政が行われていますが、2000 年代の地方分権改革に伴い、学校選択制や少人数学級編制といった自治体独自の教育施策が導入できるようになりました。さらに、いじめの問題、児童虐待、幼児教育・保育などのように教育と他の政策領域との連携が求められる課題もあります。以上のような情勢を踏まえると、教育委員会と首長部局との連携が重要です。 そこで本講義では上記の点を踏まえて、地方自治体の教育行政・制度の基本事項を解説し、今後の地方自治体の教育行政を展望するための話題を提供します。
事前課題・持ち物など	特にありません。
教科書	特にありません。
参考図書	青木栄一『文部科学省一揺らぐ日本の教育と学術』（中央公論新社、2021 年）

第1部・第2部特別課程第48期 Syllabus

作成：自治大学校教務部

〒190-8581 東京都立川市緑町10番地の1

TEL (042) 540-4502 (教務部直通)

FAX (042) 540-4505 (教務部)
